

小海高等学校生活指導係発行

衣替えを来週に控えて

衣替え後の服装については、9/29(月)発行予定の「工芸室の窓から」で徹底をしたいと考えています。今日は、それまでの9日間の服装等について注意点を示しておきたいと思います。



カーディガンは着用できません(No14にも掲載のとおり)

最近、登下校時が寒いぐらいの日があります。そのせいか、カーディガンを着ている生徒を見かけることがあります。その場で着用しないように指導しています。違反している場合は、原則として預かり指導とすることになっています。

寒いときには、ブレザーを着用してください。衣替え前でも寒いときにはブレザーの着用ができます。

膝掛けの使用ルールについて

小海高校では授業中の防寒対策として、膝掛けを膝にかけることを認めています。膝掛けは授業中の使用に限られています。教室移動の際に腰や肩に巻きついたり、授業中肩などにかけていたりすること、集会での使用は認められていません。もちろん、起立・礼をする際に巻きつけているなどは、礼儀上よくないことです。これらの点がルーズになっている生徒が一部に見られます。すぐに改善してください。

9月25日(木)には服装・頭髪指導があります。整えておきましょう。

インターネット上の書き込み

黒板の落書きなどによる誹謗・中傷は いじめです

『被害を受けている人がいじめと感ずること』がいじめの定義です。いじめている側は、ふざけ・からかい程度にしか認識していないケースもたくさんあります。学校は大勢が共同で生活する場です。お互いに不愉快な思いをしないためにも次のような言葉を使わないようにしてください。

「きもい」「うざい」「くさい」など個人を攻撃するような言葉です。

また、誰かを仲間はずれにすることもよくないことです。人間には相性や好みがあります。学校でもあまり好きになれない人もいるかもしれません。そのこと自体は普通のことです。しかし、だからといって意図的に仲間はずれにする必要はどこにもありません。挨拶、学習、作業等は普通にできるはずです。

もう一つ、集団生活で気をつけたいことがあります。「嫌だ」という気持ちをあからさまに表情、言葉、行為に出さないことです。「ため息をつく」「チェと舌打ちをする」「壁やドアなどをたたき大きな音を出す」などです。生活の中では不愉快なことがたくさんあります。そのときに感情をコントロールできることが精神的な成長です。

裏へ続く

本日は4輪免許取得説明会があります

ルールに従うことは面倒くさいことかもしれませんが、しかし、昨年小海高校では交通事故により、生徒の命が失われています。命を守ることの大切さとルールに従うことの面倒くささでは比較になりません。しかし、人間は忘れる動物です。15ヶ月以上が経過し、あの悲しみや決意を忘れかけているのではないのでしょうか。「見つからなければいい」のでしょうか。「真面目に従うのは」損をすることなのでしょうか。もしも、小海高校がそのような社会になっているとしたら、大変残念なことです。

集団になると、個人では行わないことをするようになることがあります。4輪免許取得がルールに従って行われますよう保護者の皆様のご協力をお願い申し上げます。

「あれもだめ、これもだめと何でも禁止する小海高校」

No14でも触れましたが、最近、さまざまな場面で耳にする言葉です。服装・頭髪・携帯・授業軽視・免許取得・アルバイト等、小海高校は他校より指導がきめ細かく行われていることは事実です。「自由で楽しい学校生活」を送りたい。そこで、このような指導では窮屈だから、指導をゆるめる、あるいは指導をやめるとしたらどうなるでしょうか。

授業中の私語・携帯電話の使用、茶髪・金髪、腰パン、ピアス、無断早退、無断免許取得、無断アルバイト、外泊・深夜徘徊、器物損壊、不正乗車、いじめ、暴力、喫煙などを学校では指導できなくなる（正確には指導する必要がなくなる）こととなります。表面上は「自由で楽しい学校生活」になるかもしれませんが、学校はきっと荒廃するでしょう。

今日まで、学校再編の検討過程で小海高校の名前が挙げられなかったのはどうしてでしょうか。もし、本校が荒廃した学校だったらどうだったでしょうか。恐らく、統廃合の対象となっていたはずです。今、おもしろおかしく、楽しい学校生活を送ることを優先させ、地域から見放された学校となり、消えゆく学校となっていいのでしょうか。

新入生アンケート調査結果からは、生徒・保護者の皆さんがそのようなことを願っているとは読み取れません。「中学校では十分に伸ばせなかった力を小海高校で伸ばしたい」という前向きな声をアンケート結果は出しています。

自由には制約があるものです。制約の中で自由を享受できる生徒に早くなつて欲しいと願っています。制約は学校だけに存在するものではありません、家庭においてもまた、社会全体においても存在し、守られるものでなければなりません。

